

手作りおもちゃを介しての交流効果

広島大学児童保健学教室
松橋有子

■ 研究目的

自分達の手で作ったおもちゃを介して、子ども達と仲良くなることが目的である。

■ 研究方法

対象は某大学附属高等学校2年生221名(男子138名、女子83名)である。ふれあい体験は学校の隣の保育所(0歳-5歳)において、平成7年の夏則休暇前と後の2回行なわれた。高校生には、夏則休暇中に子ども達のためのおもちゃを作成する宿題が出された。体験前と体験後にアンケート調査を実施し、両者を比較した。

■ 研究結果

1. 生徒を取り巻く状況

表1のように、家族・親戚・近所いずれにも乳幼児は少なく、日常生活の中ではほとんど乳幼児

表1-① 乳幼児の存在：家族に

	男子	女子	全体
いない	138(100%)	82(98.8%)	220(99.5%)
いる	0(0%)	1(1.2%)	1(0.5%)
計	138(100%)	83(100%)	221(100%)

との関わり合いがない状況におかれていた。また表2、表3に示すように、一緒に遊んだり、世話をした経験が一度もない者がそれぞれ約20%と約55%あり、特に男子ではその割合が高かった。

2. 乳幼児との交流

1) 乳幼児を知る

1回目は予想どおり一部の生徒の中には、乳幼児

表1-② 乳幼児の存在：親戚に

	男子	女子	全体
いない	83(60.1%)	49(59.0%)	132(59.7%)
いる	55(39.9%)	34(41.0%)	89(40.3%)
計	138(100%)	83(100%)	221(100%)

表1-③ 乳幼児の存在：近所に

	男子	女子	全体
いない	97(70.3%)	51(61.4%)	148(67.0%)
いる	41(29.7%)	32(38.6%)	73(33.0%)
計	138(100%)	83(100%)	221(100%)

とどのように関わればよいのか分からず棒立ちの状態の者が見受けられた。

2) 玩具の製作

交流をもとに、乳幼児のことを考えての玩具を

表2 乳幼児と遊んだ経験

	男子	女子	全体
何度かある	75(54.3%)	57(68.7%)	132(59.7%)
一度もない	38(27.5%)	6(7.2%)	44(19.9%)
たびたびある	22(15.9%)	19(22.9%)	41(18.6%)
その他	3(2.2%)	1(1.2%)	4(1.8%)
計	138(100%)	83(100%)	221(100%)

表3 乳幼児を世話した経験

	男子	女子	全体
一度もない	83(60.2%)	39(47.0%)	122(55.2%)
何度かある	41(29.7%)	35(42.2%)	76(34.4%)
たびたびある	10(7.2%)	8(9.6%)	18(8.1%)
その他	4(2.9%)	1(1.2%)	5(2.3%)
計	138(100%)	83(100%)	221(100%)

製作し、次回にはそのおもちゃと一緒に遊ぶことにした。

3) 手作り玩具を通しての交流

一回目でなかなか交流の場に入り難かった者も、自分の作ったおもちゃに興味を示し、楽しく遊んでいる乳幼児の姿を見て、照れながらも声を掛けることができた。

3. 生徒の記録から

1) おもちゃを製作しながら考えたり、思ったりしたこと、主な感想をまとめてみると

*乳幼児が楽しく遊んでくれることを考えてのこと

*安全面に関すること

*おもちゃの性能について

*昔の自分のこと

*その他

- ・製作の喜びを味わえた。
- ・自分の創造力のなさを痛感。
- ・作る楽しみがある。
- ・やはり手作りのものが良いな。
- ・気持ちが伝わると思って頑張って作った。
- ・遊んでいるときの様子を想像した。

等であった。

2) 手作りおもちゃの長所・短所としては次のことをあげていた。

<長所>

- ・安価・心がこもっている、温もりがある、味がある、風合いがある。
- ・愛着が生まれる。
- ・自分のイメージで思うように作れる、自由に手が加えられ、アレンジできる、オリジナルなものができる、個性がある、その子にあったもの

- ・ができる、工夫ができる、創造性が養われる。
- ・子どもと一緒に作れる、コミュニケーションがとれる。
- ・作る過程で楽しめる。
- ・自分の世代のおもちゃを次の世代に伝えられる
- ・ちょっとした物の利用でできる。
- ・修理や改造がすぐできる。

<短所>

- ・手間がかかる、時間がかかる。
- ・作るのが面倒である。
- ・こわれやすい、耐久性が低い、欠陥が多い、性能が悪い、ちやちやなものになる。
- ・うまく作れない、形がいびつ、雑になりやすい、見栄えが悪い。
- ・複雑なものは作りにくい。

これらの感想から、乳幼児に対する思いやりの気持ちや、保育で大切な点である個の尊重やふれ合いの大切さを感じていると考えられた。

3) 乳幼児とのふれあい体験学習を終えた、生徒の意見の1例をつぎに示す。

「年齢に応じた遊びがちゃんとあるんだと思った。子どもの成長は待ち遠しいものだろうけれども急ぎすぎてもいけないし、遅れてもいけない。今子どもに何が必要なかを親の目でちゃんとみきわめてあげなければならないと思う。自分が幼い時の遊びもちゃんと周りの人に守られながらだったのかもしれない。おしつけがましいのではなく、自分の個性も生かせるようにさりげないおもちゃがいいと思う。子どもは自分で発見する能力を

①乳幼児を育てることについて

	体験前	体験後
a. めんどくである	94(42.4%)	82(37.1%)
b. 忙しい		
c. 苦しい		
d. おもしろい	76(34.6%)	116(52.5%)
e. 楽しい		
f. すばらしい		
g. 幸せである		
h. 何とも思わない	51(23.0%)	23(10.4%)
i. わからない		
j. その他		
計	221(100%)	221(100%)

②「親が子どもを育てる」ということについて

	体験前	体験後
親の責任で当然と思う	106(48.0%)	91(41.2%)
素晴らしいことと思う	64(29.0%)	78(35.3%)
ありがたいことと思う	31(14.0%)	36(16.3%)
わからない	15(6.8%)	7(3.1%)
その他	5(2.2%)	9(4.1%)
計	221(100%)	221(100%)

もっていると思うから。」

多くの者が子どもをのびのびと遊ばせたいし、そのような環境整備をしていきたいとの思いを述

べていた。今日、遊びたくても遊べない大きな理由の1つに、勉強・塾・習い事がある。自分たちの過去を振り返り、反省の上に立って、本来子どもたちが持っている遊びたいという気持ちを大事にし、さらに、子どもにとっての遊びの意義すなわち他の学習では得難い創造性・社会性・協調性等を学んでいることを認識したようであった。

4. 乳幼児および保育に対する意識の変容

学習後に、学習前と同じく「乳幼児を育てることについて」の意識の概要や「親が子どもを育てることについて」の気持ちを調査した結果をつきに示す。学習前の結果と比べると項目d~gの割合が増え、かなり前向きに考える者が増えていた。また、子どもを育てることは「親の責任で当然すべきこと」といったやや義務的な捉えから、「素晴らしいこと」「ありがたいこと」といった考えが増え、保育を積極的・前向きに捉えていこうとしているように考えられた。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

手作りおもちゃを介しての交流効果